

授業情報/Class Information

授業基本情報/Course base information

科目コード /Subject Code	AU200400	ナンバリング /Numbering	LAOTH1034-C
科目名 /Subject Name	地域就業論		
英文科目名 /Subject English Name	An Introduction to Local Businesses and Jobs		
担当教員 /Teacher Name	長尾 博暢		
クラス /Class		開講学期 /Semester	後期
対象学年 /Lectures Target	1,2,3,4	開講時期 /Quarter	後期
講義室 /Room	共通教育棟A20大講義室	科目区分 /Subject Classification	全学共通科目
曜日・時限 /Week・Hour	木 5	単位区分 /Unit Classification	選択
授業形態 /Lecture Form	一般講義	単位数 /Unit Count	2.0

2019年度発行の本学広報誌『風紋』64号の64ページに、この科目の紹介記事があります。これを読んでいただくのが、この科目のイメージとして一番わかりやすいかなと思います。

<https://www.tottori-u.ac.jp/fumon/fumon64/html5.html?k=MTU50Tc0NjY3NDQxMQ&s=score#page=15>

準備事項 /Matter of Prepare

なお本科目では例年、受講に身の入らない学生、まして授業中に内職や居眠りを働く学生にはお引き取り願いたいという担当教員の想いから、第1回授業のオリエンテーションでこの授業の実施スタイルを説明し、理解・納得できる諸君にのみ、引き続きの履修を勧めています。第1回のオリエンテーションを受講し、第2回以降の受講（または履修取り消しによるほかの学生への追加登録機会の提供）に臨んでください。

第1回（10月5日（木））は、オリエンテーションです。

10月の12日（木）・19日（木）・26日（木）はオンライン形式も含め、授業は実施しません。

備考 /Note

第2回の授業は、11月2日（木）5限に実施します。
また、11月18日（土）にオンラインで開催される催事への参加が、第5回・第6回・第7回授業への出席として取り扱われます。
これらのことについて詳しくは、第1回のオリエンテーション内で説明します。

授業概要情報/Course description

担当教員所属・研究室 /Department/Center and Room	(所属) 教育支援・国際交流推進機構 キャリアセンター キャリアセンター：共通教育棟B棟1階 (研究室) 共通教育棟B棟2階（B2コラボ教室の向かい、B21講義室の手前）
オフィスアワー /Office Hours	履修が確定した諸君には、授業を通じてあらかじめ対応可能な曜日・時間帯を伝えるものとする。
担当教員への連絡方法 /Contact Details	履修が確定した諸君には、授業を通じてあらかじめ連絡先のメールアドレスを伝えるものとする。
授業の目的と概要 /Course Description and Outline	鳥取大学では、1年生の前期に「キャリア入門」を履修させているほか、「就業体験学習」、「ワーク・ライフ・バランス論」、など、「キャリア科目」と呼ばれる科目群を設置している。 また、地域の産業界への理解促進と職業観・就業意識の醸成を図るとともに、卒業後も地域の社会と産業を担う中核的人材として確保し育て上げるため、鳥取県内の産官学で鳥取県インターンシップ推進協議会を設立し、「とっとりインターンシップ」の名のもと、鳥取県の内外を問わず広くインターンシップへの参加を呼びかけるなど、県内関係者総がかりの体制でインターンシップの推進を図っている。 一般に、都市部立地の企業やいわゆる大企業との対比において、地方に存在する企業は、先入観や固定観念のほか、情報の不足も相まって、学生からはしばしば消極的に捉えられがち傾向にある。また、地方や地域にもともと肯定的意識をもつ学生であっても、実際に地方や地域での「働く」や「暮らす」を自らの問題として中長期的に考え、具体的行動に結びつけていくうえで役立つ有益な情報が、彼らの周りに身近に存在しているとは必ずしもいえ

ない状況がある。

そこで、どのような学生であっても、地域の産業界に対して、事実・実態に根差した適正な理解と積極的な認識をもてるようになるよう、本学では教養教育の一環としてキャリア科目「地域就業論」を2015年度より開設し、多くの学生に対して履修の機会を提供している。

(キーワード)

地域、地方、産業界、働く、就職、キャリアデザイン、鳥取、コミュニケーション
(テーマ)

キーワード /Keywords

1. 「鳥取発！ナンバーワン！オンリーワン！」
2. 「鳥取から世界へ・鳥取で世界と勝負する」
3. 「地域社会を支える・つなぐ」
4. 「新しい鳥取の魅力を創る」
5. 「わが社の人材育成、ワーク・ライフ・バランス支援」
6. 「鳥取県で暮らす魅力とは」
7. 「本学卒業生からのメッセージ」

「地域の産業界に対して、事実・実態に根差した適正な理解と積極的な認識をもてるようになる。」

この到達目標は、本学の定める「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」のうち、特に3. と4. への寄与を念頭に置くものである。

到達目標 /Objectives

(参考) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 文化、社会、自然に関する幅広い知識や各専門分野に関する深い知識を有し、これを理解するとともに、知識獲得のための方法と技能を有している。
2. 論理的思考力、的確な判断力、創造的表現力に基づき様々な諸課題を探究し解決を志向できる。
3. 地域・国際社会での将来の活動に興味・関心を持ち、主体的・継続的に学び、自らの人生を豊かにする生涯学習力を有している。
4. 健全な倫理観を有し、豊かなコミュニケーションをもとに他者と協働し実践する力を身につけている。

他の科目との関連 /Prerequisite

入門科目「キャリア入門」（前期（1年以上））、キャリア科目「就業体験学習」（前期集中（1年・2年））、キャリア科目「ワーク・ライフ・バランス論」（後期集中（1年以上））とあわせての履修を推奨する。

教科書（テキスト）・参考書 /Textbooks and Bibliography

購入が必要な教科書等はない。毎回、その授業回の登壇企業に関係する資料などを配布する。

以下のとおり、講義を基本形態としつつ、アクティブ・ラーニングの要素を含む。

授業の形式 /Classwork

第2回以降、対面形式では基本的に次のような形態で毎回の授業を実施する。

□1コマ（90分間）あたり2企業にご登壇いただく。

□県内産業界の先進性や独創性等、魅力や活力を学生に向けてより訴求できるよう、お話しいただく内容をご検討いただく際の参考として、業界横断的な共通テーマ（下記）を設定。各ご登壇企業に、自社に該当するもの・学生に向けて訴えかけたいものを任意でご判断いただき、登壇時にそれらの具体的内容についてご紹介いただく。

【共通テーマ】

1. 「鳥取発！ナンバーワン！オンリーワン！」
2. 「鳥取から世界へ・鳥取で世界と勝負する」
3. 「地域社会を支える・つなぐ」
4. 「新しい鳥取の魅力を創る」
5. 「わが社の人材育成、ワーク・ライフ・バランス支援」
6. 「鳥取県で暮らす魅力とは」
7. 「本学卒業生からのメッセージ」

□授業の終盤（約25分）に、ご登壇企業（ご登壇者）と学生との間のインタラクティブなコミュニケーション・タイムを設定。ご登壇企業（ご登壇者）と学生とが「生の声」や「ホンネ」をまじえたコミュニケーションを行うことで相互理解を深めることをねらう。

- ①「ショート・レポート」（原則として第2回以降、manabaを通じて毎回（【成績評価対象】と表記のあるもの））・・・評価全体の40%相当
- ②「コミュニケーション・タイム」での（質問等を通じた）貢献・・・評価全体の25%相当

「コミュニケーション・タイム」の時間帯に（その場で必要と考えた）質問等を登壇者に行い、「コミュニケーション・タイム」の活性化に貢献する。

当日はご登壇者への質問に先立ち、マイクを通じて所属学部と氏名を名乗ることを条件とする。

- ③期末レポート・・・評価全体の25%相当
- ④【成績評価への加点措置（インセンティブ）あり】の指定のある催事への参加・・・評価全体の10%相当

成績の評価方法と基準 /Assessment

担当教員からのメッセージ /Message from the Teacher

本科目では例年、受講に身の入らない学生、まして授業中に内職や居眠りを働く学生にはお引き取り願いたいという担当教員の想いから、第1回授業のオリエンテーションでこの授業の実施スタイルを説明し、理解・納得できる諸君にのみ、引き続きの履修を勧めている。いまだ続くコロナ禍が、本科目に毎回ご登壇いただく県内産業界の方々にも当然大きく影響をもたらしているわけだが、そうしたなかにあってもスケジュールを調整・確保のうえ諸君の前で実際にご登壇くださるということは、本当に格別の意味をもつ。そうした事情や状況を十分理解したうえで第1回のオリエンテーションを受講し、第2回以降の受講（または履修取り消しによるほかの学生への追加登録機会の提供）に臨んでほしい。

授業計画（コマ単位で記入できない科目：卒業研究や実習など）
/The course which is not conducted by the class, graduation research, practice, etc.

教育グランドデザインとの関連
/Educational Grand Design

ディプロマ・ポリシーとの関連
/Diploma Policy

実務経験
/Work experience

実務経験と授業科目の関係性
/Relationship between the work experience and the course

○授業日程

第1回：10月5日（木）オリエンテーション

（12日（木）・19日（木）・26日（木）は授業を実施しない）

第2回：11月2日（木）

第3回：11月9日（木）

第4回：11月16日（木）

第5回：11月18日（土）※1

第6回：11月18日（土）※1

第7回：11月18日（土）※1

第8回：11月29日（水）木曜日の振替授業

第9回：12月7日（木）

第10回：12月14日（木）

第11回：12月21日（木）

第12回：12月26日（火）木曜日の振替授業

第13回：1月11日（木）

第14回：1月18日（木）

第15回：1月25日（木）

※1・・・11月18日（土）はインターンシップ関連の催事に自宅など任意の場所からオンライン参加する。終日参加により、授業3回分（第5回・第6回・第7回）として換算する。

※2

※2・・・当日終日参加しない（できない）、または部分的に参加しない（できない）場合の代替措置は別途指示する。

○各授業回の基本的タイムライン

5分間 担当教員（長尾）から趣旨説明・ご登壇企業の紹介

30分間 1社目ご登壇

30分間 2社目ご登壇

25分間 ご登壇企業2社と学生とのコミュニケーション・タイム

○第2回以降求める予習の内容—特に「コミュニケーション・タイム」の活性化のために

①当該回の登壇企業や関連する業種・業界等について、HP等を見て、企業の概要をあらかじめ把握しておく。

②①の内容をもとに、授業当日の「コミュニケーション・タイム」時に登壇者に対して聞いてみたいことを（実際に質問に至るかは別にして）準備しておく。それは具体的な質問項目のかたちで用意してもよいし、「こんなことを聞いてみようかな」というイメージをもっておくだけでもよい。企業の方に直接聞くことができる貴重な機会をうまく活用できるように臨んでほしい。

○その他

- ・新型コロナウイルスの感染防止対策については、各自においても十分に留意してほしい。
- ・授業時間以外に本科目に関して重要な情報を提供する場合は、原則としてmanaba（リマインドつき）に掲出する。
- ・本科目の趣旨と親和性の高い学内外の取組や催事、制度について、（場合によっては成績評価への加点措置（インセンティブ）を付与するかたちで）アナウンスすることがある。
- ・「対面式」という条件下を活用して、履修者のみなさんの学習効果向上や学生生活の充実化に寄与する取組等を提案する場合がある。

本科目を受講して得られる知識や能力は、本学が教育グランドデザインで定める以下の「現代的教養」と「人間力」の要素に該当する。

「現代的教養」

(1) 文化、社会、自然に関する幅広い知識

(4) 創造性に富む思考力

「人間力」

(1) 自律性にもとづく実行力

(2) 多様な環境下での協働力

(3) 高い倫理観と市民としての社会性

本科目により得られる学修成果は、本学の定める「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」のうち、特に3. と4. への寄与を念頭に置くものである。

（参考）卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 文化、社会、自然に関する幅広い知識や各専門分野に関する深い知識を有し、これを理解するとともに、知識獲得のための方法と技能を有している。
2. 論理的思考力、的確な判断力、創造的表現力に基づき様々な諸課題を探究し解決を志向できる。
3. 地域・国際社会での将来の活動に興味・関心を持ち、主体的・継続的に学び、自らの人生を豊かにする生涯学習力を有している。
4. 健全な倫理観を有し、豊かなコミュニケーションをもとに他者と協働し実践する力を身につけている。

有

上記のとおり、鳥取県内の産業界の方にご登壇いただく授業形態を基本とする。

授業計画詳細登録/Course schedule

回 /Times	授業内容 /Course Contents	予習・復習内容 /Contents of Preparation / Review	備考 /Note
第1回：10月5日 (木)	オリエンテーション	オリエンテーション内、またはmanabaの コースニュース上で、詳細をアナウンスす る。	(10月の12日(木)・19 日(木)・26日(木)は オンライン形式も含め授 業を実施しない。)
第2回：11月2日 (木)	「とっとりインターンシップWEB 合同企業説明会」(11/18 (土))ガイダンス	第2回以降求める予習の内容一特に「コミュ ニケーション・タイム」の活性化のために ①当該回の登壇企業や関連する業種・業界 等について、HP等をみて、企業の概要をあら かじめ把握しておく。 ②①の内容をもとに、授業当日の「コミュ ニケーション・タイム」時に登壇者に対し て聞いてみたいことを(実際に質問に至る かは別にして)準備しておく。それは具体 的な質問項目のかたちで用意してもよい し、「こんなこと聞いてみようかな」とい うイメージをもっておくだけでもよい。企 業の方に直接聞くことができる貴重な機会 をうまく活用できるように臨んでほしい。	
第3回：11月9日 (木)	県内産業界の方のご登壇	第2回以降求める予習の内容一特に「コミュ ニケーション・タイム」の活性化のために ①当該回の登壇企業や関連する業種・業界 等について、HP等をみて、企業の概要をあら かじめ把握しておく。 ②①の内容をもとに、授業当日の「コミュ ニケーション・タイム」時に登壇者に対し て聞いてみたいことを(実際に質問に至る かは別にして)準備しておく。それは具体 的な質問項目のかたちで用意してもよい し、「こんなこと聞いてみようかな」とい うイメージをもっておくだけでもよい。企 業の方に直接聞くことができる貴重な機会 をうまく活用できるように臨んでほしい。	
第4回：11月16日 (木)	県内産業界の方のご登壇	第2回以降求める予習の内容一特に「コミュ ニケーション・タイム」の活性化のために ①当該回の登壇企業や関連する業種・業界 等について、HP等をみて、企業の概要をあら かじめ把握しておく。 ②①の内容をもとに、授業当日の「コミュ ニケーション・タイム」時に登壇者に対し て聞いてみたいことを(実際に質問に至る かは別にして)準備しておく。それは具体 的な質問項目のかたちで用意してもよい し、「こんなこと聞いてみようかな」とい うイメージをもっておくだけでもよい。企 業の方に直接聞くことができる貴重な機会 をうまく活用できるように臨んでほしい。	
第5回：11月18日 (土)※	「とっとりインターンシップWEB 合同企業説明会」(学外催事オン ライン参加)		※1・・・11月18日 (土)はインターンシッ プ関連の催事に自宅など 任意の場所からオンライ ン参加する。(終日参加 により授業3回分(第5 回・第6回・第7回)と して換算※2) ※2・・・当日終日参加し ない(できない)、また は部分的に参加しない (できない)場合の代替 措置は別途指示する。
第6回：11月18日 (土)※	「とっとりインターンシップWEB 合同企業説明会」(学外催事オン ライン参加)		※1・・・11月18日 (土)はインターンシッ プ関連の催事に自宅など 任意の場所からオンライ ン参加する。(終日参加 により授業3回分(第5 回・第6回・第7回)と して換算※2) ※2・・・当日終日参加し ない(できない)、また は部分的に参加しない

回 /Times	授業内容 /Course Contents	予習・復習内容 /Contents of Preparation / Review	備考 /Note
第7回：11月18日 (土) ※1	「とっとりインターンシップWEB 合同企業説明会」(学外催事オン ライン参加)		(できない) 場合の代替 措置は別途指示する。 ※1・・・11月18日 (土)はインターンシッ プ関連の催事に自宅など 任意の場所からオンライ ン参加する。(終日参加 により授業3回分(第5 回・第6回・第7回)と して換算※2) ※2・・・当日終日参加し ない(できない)、また は部分的に参加しない (できない) 場合の代替 措置は別途指示する。
第8回：11月29日 (水)	県内産業界の方のご登壇	第2回以降求める予習の内容一特に「コミュ ニケーション・タイム」の活性化のために ①当該回の登壇企業や関連する業種・業界 等について、HP等をみて、企業の概要をあ らかじめ把握しておく。 ②①の内容をもとに、授業当日の「コミュ ニケーション・タイム」時に登壇者に対し て聞いてみたいことを(実際に質問に至る かは別にして)準備しておく。それは具体 的な質問項目のかたちで用意してもよい し、「こんなこと聞いてみようかな」とい うイメージをもっておくだけでもよい。企 業の方に直接聞くことができる貴重な機会 をうまく活用できるように臨んでほしい。	
第9回：12月7日 (木)	県内産業界の方のご登壇	第2回以降求める予習の内容一特に「コミュ ニケーション・タイム」の活性化のために ①当該回の登壇企業や関連する業種・業界 等について、HP等をみて、企業の概要をあ らかじめ把握しておく。 ②①の内容をもとに、授業当日の「コミュ ニケーション・タイム」時に登壇者に対し て聞いてみたいことを(実際に質問に至る かは別にして)準備しておく。それは具体 的な質問項目のかたちで用意してもよい し、「こんなこと聞いてみようかな」とい うイメージをもっておくだけでもよい。企 業の方に直接聞くことができる貴重な機会 をうまく活用できるように臨んでほしい。	
第10回：12月14日 (木)	県内産業界の方のご登壇	第2回以降求める予習の内容一特に「コミュ ニケーション・タイム」の活性化のために ①当該回の登壇企業や関連する業種・業界 等について、HP等をみて、企業の概要をあ らかじめ把握しておく。 ②①の内容をもとに、授業当日の「コミュ ニケーション・タイム」時に登壇者に対し て聞いてみたいことを(実際に質問に至る かは別にして)準備しておく。それは具体 的な質問項目のかたちで用意してもよい し、「こんなこと聞いてみようかな」とい うイメージをもっておくだけでもよい。企 業の方に直接聞くことができる貴重な機会 をうまく活用できるように臨んでほしい。	
第11回：12月21日 (木)	県内産業界の方のご登壇	第2回以降求める予習の内容一特に「コミュ ニケーション・タイム」の活性化のために ①当該回の登壇企業や関連する業種・業界 等について、HP等をみて、企業の概要をあ らかじめ把握しておく。 ②①の内容をもとに、授業当日の「コミュ ニケーション・タイム」時に登壇者に対し て聞いてみたいことを(実際に質問に至る かは別にして)準備しておく。それは具体 的な質問項目のかたちで用意してもよい し、「こんなこと聞いてみようかな」とい うイメージをもっておくだけでもよい。企 業の方に直接聞くことができる貴重な機会 をうまく活用できるように臨んでほしい。	

回 /Times	授業内容 /Course Contents	予習・復習内容 /Contents of Preparation / Review	備考 /Note
第12回：12月26日 (火)	県内産業界の方のご登壇	<p>第2回以降求める予習の内容一特に「コミュニケーション・タイム」の活性化のために</p> <p>①当該回の登壇企業や関連する業種・業界等について、HP等を見て、企業の概要をあらかじめ把握しておく。</p> <p>②①の内容をもとに、授業当日の「コミュニケーション・タイム」時に登壇者に対して聞いてみたいことを（実際に質問に至るかは別にして）準備しておく。それは具体的な質問項目のかたちで用意してもよいし、「こんなこと聞いてみようかな」というイメージをもっておくだけでもよい。企業の方に直接聞くことができる貴重な機会をうまく活用できるように臨んでほしい。</p>	
第13回：1月11日 (木)	県内産業界の方のご登壇	<p>第2回以降求める予習の内容一特に「コミュニケーション・タイム」の活性化のために</p> <p>①当該回の登壇企業や関連する業種・業界等について、HP等を見て、企業の概要をあらかじめ把握しておく。</p> <p>②①の内容をもとに、授業当日の「コミュニケーション・タイム」時に登壇者に対して聞いてみたいことを（実際に質問に至るかは別にして）準備しておく。それは具体的な質問項目のかたちで用意してもよいし、「こんなこと聞いてみようかな」というイメージをもっておくだけでもよい。企業の方に直接聞くことができる貴重な機会をうまく活用できるように臨んでほしい。</p>	
第14回：1月18日 (木)	県内産業界の方のご登壇	<p>第2回以降求める予習の内容一特に「コミュニケーション・タイム」の活性化のために</p> <p>①当該回の登壇企業や関連する業種・業界等について、HP等を見て、企業の概要をあらかじめ把握しておく。</p> <p>②①の内容をもとに、授業当日の「コミュニケーション・タイム」時に登壇者に対して聞いてみたいことを（実際に質問に至るかは別にして）準備しておく。それは具体的な質問項目のかたちで用意してもよいし、「こんなこと聞いてみようかな」というイメージをもっておくだけでもよい。企業の方に直接聞くことができる貴重な機会をうまく活用できるように臨んでほしい。</p>	
第15回：1月25日 (木)	県内産業界の方のご登壇	<p>第2回以降求める予習の内容一特に「コミュニケーション・タイム」の活性化のために</p> <p>①当該回の登壇企業や関連する業種・業界等について、HP等を見て、企業の概要をあらかじめ把握しておく。</p> <p>②①の内容をもとに、授業当日の「コミュニケーション・タイム」時に登壇者に対して聞いてみたいことを（実際に質問に至るかは別にして）準備しておく。それは具体的な質問項目のかたちで用意してもよいし、「こんなこと聞いてみようかな」というイメージをもっておくだけでもよい。企業の方に直接聞くことができる貴重な機会をうまく活用できるように臨んでほしい。</p>	期末レポートの設問発表